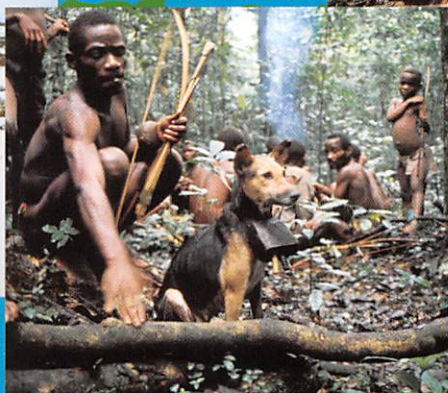


第13回  
特別展

 北海道立北方民族博物館  
Hokkaido Museum of Northern Peoples

# ドイヌと犬



—ドイヌをめぐる民族誌—

1998・7・19(日)～9・27(日)

■休館日 月曜日(7月20日は開館)

■開館時間 9:30～16:30

■特別展 一般 250円(200)円  
観覧料 高校生・大学生 80(50)円  
小学生・中学生 50(30)円  
( )内は10名以上の団体料金

北海道立北方民族博物館

〒093-0042

北海道網走市字潮見313-1

(天都山・道立オホーツク公園内)

TEL 0152-45-3888

FAX 0152-45-3889

# 人、イヌと歩く

—イヌをめぐる民族誌—

人は長い歴史の中で、いろいろな動物とつきあってきました。中でもイヌ（食肉目イヌ科）は、人とのつながりをもっとも深い動物ではないでしょうか。

イヌは人と一緒に暮しはじめた最初の動物とされていて、イスラエルでは約12,000年前の遺跡から人とともに埋葬されたと思われる子イヌの骨が発見されています。また、イヌは人の生活するほとんどすべての地域で普通にみられる動物で、人とのつきあいもたいへん幅広いものになっています。

多くの地域でイヌは人気のあるペットとしてかわいがられています。東南アジアの国々やインドなどでは人間社会の残り物を食べる不潔な動物として嫌われる存在でもあります。また、イヌはいろいろな場面で人の仕事の手伝いをする役に立つ動物という側面も持っています。世界各地で狩猟の助手という役割を担ってきましたし、ヒツジやヤギを飼っている人びとの間では、オオカミから家畜を守る警備員の役割を果たしてきました。北方地域の積雪地域ではイヌはそりの牽引という役割を与えられ、人の移動や物の運搬に力を発揮していました。これらの幅広いつきあい以外に、世界各地でイヌの肉を食物にしたり、毛皮を衣服に加工したりといったかたちの人との関わりもみられます。

この特別展では北方地域をはじめ、広く世界各地の人とイヌの関わりとその歴史について紹介します。

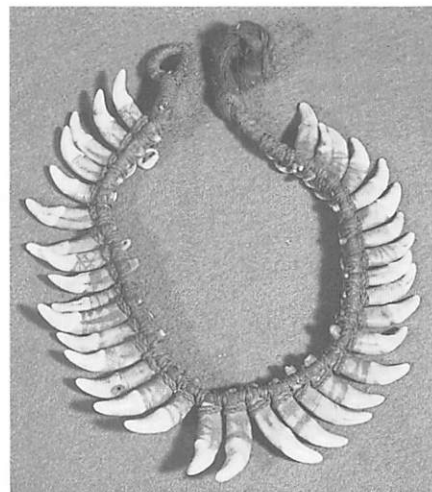
表写真（左から）

イヌの背に荷物をくくりつける（ドッグ・バック）／カナダ、ノース・ウエスト・テリトリー  
（撮影：原ひろ子氏 1962年）

チュクチのイヌたち／ロシア、チュクチ自治区（撮影：池谷和信氏 1997年）

ムプティと狼犬／コンゴ民主共和国（旧ザイール）、イトウリの森  
（撮影：市川光雄氏 1990年）

四つ目と呼ばれる模様のイヌ／中国、内蒙古自治区（撮影：小長谷有紀氏 1988年）



イヌ歯製首飾り／バブア・ニューギニア  
（写真：野外民族博物館リトルワールド）

## ■協力

国立民族学博物館

野外民族博物館リトルワールド

市立函館博物館

函館市北方民族資料館

大阪府立弥生文化博物館

植村直己冒険館

㈱文藝春秋

ペットライフ社

池谷和信氏 市川光雄氏  
大塚和義氏 萩田昇氏  
葛野浩昭氏 児玉マリ氏  
小長谷有紀氏 丹野正氏  
寺嶋秀明氏 原ひろ子氏  
松原正毅氏 吉田集而氏

## ■特別展関連講演会

「人、イヌと歩く —イヌをめぐる民族誌—」

人とイヌのさまざまな関わりを紹介します。

とき 9・19(土) 13:30~17:00

ところ 当館講堂

講師 新妻昭夫氏（恵泉女学園大学）

石黒直隆氏（帯広畜産大学）

池谷和信氏（国立民族学博物館）

※参加は無料です。電話でお申し込み下さい。

特別展期間中の催し

■7・20(月) 14:00~15:30

講座「人とイヌとの関わり」

講師 中田 篤（当館学芸員）

■7・25(土) 10:00~11:30

博物館クラブ「さかなをだます —ルアーづくり—」

講師 中田 篤（当館学芸員）

■7・29(水) 14:00~15:30

講習会「ウイルトタのお人形づくり」

講師 北川アイ子氏

（資料館ジャッカ・ドフニ館長）

■9・12(土) 10:00~12:00

博物館クラブ「土器づくり(1)」

講師 稲垣はるな（当館学芸員）

※上記催しへの参加は無料です。

事前に電話でお申し込み下さい。

北海道立北方民族博物館

〒093-0042 網走市字潮見313-1（天都山・道立オホーツク公園内）  
TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889